

# みなとっふ

地域の魅力を地元から発信

Takanawa Community News Magazine

## 高輪地区情報紙

三田4・5丁目・高輪・白金・白金台

2022年11月

Vol. 47

発行：高輪地区総合支所 協働推進課  
編集：みなとっふ編集室

<https://www.city.minato.tokyo.jp/takanawachikusei/takanawa/koho/saishin.html>



### 秋色に染まるプラチナ通り

11月～12月のプラチナ通りはイチョウ並木の葉が黄金色に変わり、歩道にも枯葉が積り、街全体が秋色に染まります。店を覗きながら散歩してもよし、コーヒーショップやレストランから街を眺めるもよし。秋のプラチナ通りを訪れてみませんか。

プラチナ通り (写真/松島 文/安藤)

## CONTENTS

P2 施設訪問 味の素グループ高輪研修センター

P3 この街にこの人あり

うめだたけひさ  
梅田武久さん(高輪北町親和会会長)



P4 地域のあしあと

私たちの街にチンチン電車(都電)が走っていたころ

P5 街が変わる 高輪ゲートウェイシティ(仮称)文化創造棟

文化創造棟準備室長 内田まほろさん



P6 日本料理のレシピ紹介

ペット 私だって地域の一員! 猫のナナちゃん



P7 わがまちの保育園紹介

みなと保育園/えほんのもり白金台保育園

P8 区からのお知らせ



# 味の素グループ高輪研修センター

国内トップを誇る「食の図書館」、展示室や博物館も併設

DATA

食の文化ライブラリー（食専門図書館）

食文化展示室

食とくらしの小さな博物館

港区高輪3-13-65

味の素グループ高輪研修センター内

開館時間：午前10時～午後5時

開館日：月曜日～土曜日

休館日：日曜日・祝祭日・年末年始・臨時休館日・図書整理期間（食の文化ライブラリーの場合）・展示替え期間（食文化展示室の場合）



研修センター西側正面には歴史を感じさせる木造の門がある



食文化展示室（提供：公益財団法人味の素食の文化センター）

高輪3丁目、二本榎通りに面して、洗練されたデザインの3階建ての建物が「味の素グループ高輪研修センター」です。名前のとおり、味の素株式会社およびグループ各社の研修センターとしての機能が主ですが、以下の3か所は一般の方も利用可能です。まずは「食の文化ライブラリー」。そして日本の食の歴史を概括する「食文化展示室」、「食とくらしの小さな博物館」の3か所です。食文化や料理に関心のある方には見逃せない施設といえそうです。

## 竣工は2004年、旧施設の文化を引き継ぐ

センターのある場所は、江戸時代には信州飯田藩本田家の下屋敷で、二本榎通りから第一京浜に通じる一方通行の通りは、古地図で「本田横丁」と記されています。明治時代に入って廃藩後に、所有は何回か変わり大正5(1916)年に味の素グループ創設者である(2代)鈴木三郎助氏が自宅用に取得したものです。建造の途中で同氏は亡くなり、昭和7(1932)年の完成後は3代鈴木三郎助氏の邸宅となり、第二次世界大戦後に「味の素記念館」として保存されてきました。

この記念館を全面的に改築して平成16(2004)年12月にオープンしたのが現在の建物です。敷地面積3,228平方メートルに地上3階、地下1階延べ床面積は約6,000平方メートルですが、こうした規模にも関わらず、和風の外観を維持していることが大きな特色です。同社によると、研修センターとして事業の国際展開を意識し、海外からの研修生が日本文化に触れて理解することも目的としているそうです。このため「食とくらしの小さな博物館」を併設し、研修生だけでなく一般にも公開しています。

## 食の図書館も一般公開、無料で利用可能

地域の住民の視点からみると、最大の特徴は「食」の分野をあらゆる角度から資料を収集している図書館「食の文化ライブラリー」(1階)

を無料で一般に公開、冊数に制限はあるものの貸し出しも行っていることです。同館を運営する公益財団法人「味の素食の文化センター」によりますと、5万冊に近い蔵書がある食文化に特化した公開図書館は日本では最大規模ということです。蔵書は江戸時代の料理本、食に関する単行本、雑誌、学术论文など多岐にわたり、大学生(院生)、研究者のほか料理に関わる専門家なども利用に訪れているそうです。

資料を利用した「食文化展示室」(2階)では江戸時代の文献を用いた再現料理レプリカなども公開しています。同フロアの「食とくらしの小さな博物館」は自社製品の展示も多少はありますが、日本の食文化の変遷を紹介するのが目的で、民間企業の施設には珍しく食文化に大きな影響のあった他社の製品なども紹介、時代別の食卓の再現もあり、味の素株式会社の100年の歴史と、同時代の日本の食生活の変遷が学べるように配慮しています。

## 外観にも伝統文化の伝承を配慮

同研修センターの元となった鈴木邸は昭和7(1932)年に完成していますが、建築を計画した2代目は設計者に御所大工の家系を引き継ぎ、宮内省(当時)の技師であった木子幸三郎氏に依頼し「近代和風」を目指し、このためか記録によれば昭和12(1937)年のパリ万博に模型が出展されたといえます。建設に先駆けて、自ら設計者とともに京都や奈良に出かけて、銘木や名石などを集めました。同センターの新築時にも昭和初期の文化を伝承する工夫がいくつも採用されています。やや規模は縮小されたといえますが、苑地(えんち)は残され今も悠々と錦鯉が泳いでいます。庭園には一般の立ち入りはできませんがロビーの庭に面するところは全面ガラス張りになっていて全体を見ることができます。

外観では正門左側の木造の門が歴史を感じさ



食の文化ライブラリー（提供：公益財団法人味の素食の文化センター）

せませす。蒐集(しゅうしゅう)した銘木で建設したと想像されます。同センターの建設計画時に歴史的な建造物に詳しい専門家などの要請によりこれまでの建造物の一部保存、移築が行われたとのことですが、素材や様式などの詳しい記録は残っていないようです。

## 品格ある塀、景観を守る

二本榎通りから第一京浜に向かう一方通行の道の右側に続くのが淡い色彩の長い塀。これも鈴木邸の建設時に作られたもので、独特の風格を帯びています。この塀も専門家などのアドバイスを受け保存を決定したそうで、開発が急速に進む高輪地区にあって意義のあるものといえそうです。



昭和初期、鈴木邸建設時に作られた塀



# この街にこの人あり

うめだ たけひさ

## 梅田武久さん（高輪北町親和会会長）

### プロフィール

1939(昭和14)年生まれ  
1965(昭和40)年 高輪消防団に入団  
1975(昭和50)年 同班長  
1978(昭和53)年 同部長  
1992(平成4)年 同分団長  
2006(平成18)年 同団長  
2008(平成20)年 東京都消防協会第一方面支部長  
2016(平成28)年 高輪北町親和会会長

### 表彰

1985(昭和60)年 港区長表彰  
1993(平成5)年 東京都知事表彰  
1996(平成8)年 消防長官表彰  
2010(平成22)年 瑞宝双光章受章



83歳の今でもご活躍の梅田武久さん

## 「消防団の活動に45年従事し、数々の表彰を受けました」

### ●高輪北町親和会について

#### —高輪北町親和会はいつごろ結成されたのですか

戦後、昭和23(1948)年です。当時は木造の戸建ての家が多かったです。

昭和42(1967)年頃より、お屋敷がマンションに変わり、町中が変化してゆきました。

高輪ゲートウェイ駅の開業に伴い、さらにマンションが増え、人口は増えています。

#### —梅田さんが会長になられて何年になりますか。会長になられて、どんなことをされましたか

6年目です。それまでは消防団として、側面から町会をサポートしていました。

会長になった時は、役員が10名程度でしたが、役員数を倍に増やし、青年部を創設しました。また、町会を紹介するガイドブックをまとめ、歴史、規約、役員、行事など町会のことがわかるようにした、「町会だより」を年3回発行しています。町会の行事などを伝えています。区の事業である「地域の潤滑油となる講座」に参加した若い役員が作業を引き受けており、助かっています。

町会の大きな行事は、高輪神社がすぐ近くにあるので、やはり神社のお祭りですね。

#### —高輪ゲートウェイ駅周辺の大きな開発と隣接していますが、JR東日本と町会との交流はありますか

JR東日本の担当者が、町会の役員会に出席しました。また、JR東日本主催の「高輪地区まつり feat. Takanawa Gateway Fest 2022」が10月に開催されました。このお祭りはJR東日本と地域との交流を図る目的で、駅前の道路を通行止めにし、いくつかブースが出店され、イベントもありました。当町会はこのお祭りに町会の広報も兼ねブースを出店し、高輪神社の大神輿を展示しました。

今後もJR東日本と町会との連携を深めていきたいと思っています。

Takanawa Gateway Fest 2022で、お神輿を展示しました



#### —町会活動の課題は

マンションが増え、人口は増加していますが、会員数が伸び悩んでいます。

また、役員の高齢化と役員を引き受けてくれる方が少ないのが悩みです。



消防団のポンプ操法大会で挨拶

### ●消防団活動について

#### —消防団には、いつ頃入られましたか。また、そのきっかけは

昭和40(1965)年に入団しました。

消防団に入った動機は、兄が入っていて勧められたことです。兄はその後、高輪から移転し、私が残りました。当時は、火災が多かったので、消防団もよく出動しました。

#### —消防団で長く活躍されましたね

団活動に45年程従事し、平成18(2006)年には団長に任命されました。

周りの方々や家族に支えられ平成22(2010)年に「瑞宝双光章」の叙勲の榮譽を受けました。

#### —消防団についての課題は

消防団は地域の火災、災害に大きな役割を果たし、平常時でも防災訓練の指導や広報活動などを行っています。

しかし、どこの消防団も必要な団員数が確保できていませんので、団員の確保が課題です。地域活動にご協力いただける方は、お近くの消防団へお問い合わせいただけると嬉しいです。

### ●梅田石材店について

#### —梅田石材店はいつごろから始められたのですか

高輪で始めたのは明治30(1897)年からです。私は、3代目になります。祖父は滋賀県比叡山のふもとで石材店を開いていました。その後、上京し御影石職人として市電の敷設工事等の石材工事をしていました。縁があり高輪に店を構えました。店の前の

梅田さんがデザインした供養塔 (提供:梅田石材店)



通りは、当時は曲がって桂坂に繋がっていました。庚申横丁(職人通り)と言われ、畳屋、金物屋などが並んでいました。高輪はお寺が多いので、徐々に墓石の仕事が多くなりました。今は、工場で加工された石材の施工・販売を主としています。

今は、息子が後を継いでおり、私は会長職として第一線を退いています。

#### —石材店で苦勞されたことはありますか

高輪は起伏の多い土地なので、石材の運搬作業が大変です。

また、私のデザインで屋根を曲線にした供養塔を建てた時は、その加工が難しく、また、設置するのに苦勞しました。

#### —ご趣味は

常磐津とマジックです。常磐津は消防団の仲間と一緒に習いました。飲み会の時など、歌ったりします。マジックは「みなとマジッククラブ」に所属しています。

#### ●取材を終えて

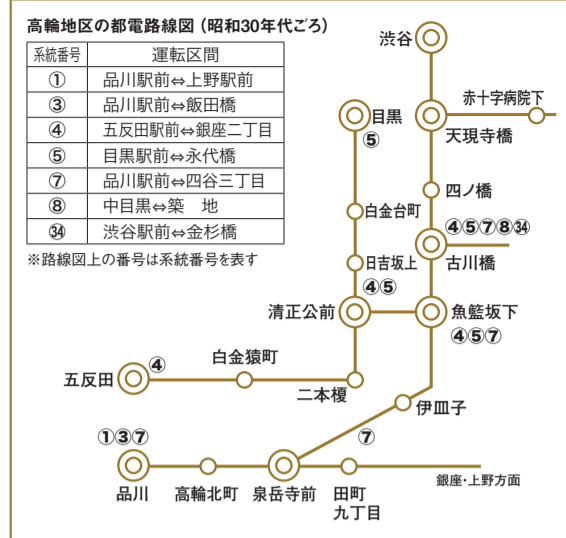
火災や災害時には危険を伴う活動をする消防団に45年も勤務された梅田さんに頭が下がります。さらに、町会長としても工夫をされながら活動されています。このような方が地域で活躍されているのを誇りにしたいですね。



# 地域のあしあと

## 私たちの街にチンチン電車(都電)が走っていたころ

かつて高輪地区には5系統の都電が、今の都バスのように区内を巡り、市民の生活を支えていました。東京に初めて路面電車が登場したのは明治36(1903)年、品川を起点として上野まで開通した①系統です。その後大正から昭和初期にかけて、③④⑤⑦系統と拡張され長く親しまれましたが、自動車の増加による渋滞や遅延、地下鉄の開通、物価統制による運賃の据え置きなど、複数の要因が都電運営を圧迫し、昭和41(1966)年、国の地方公営企業法の大改正に伴う改革で翌昭和42(1967)年12月10日に惜しまれつつも廃止され、今はその面影もありません。(伊皿子線は距離を短縮して昭和44(1969)年10月25日まで運行)  
今回は、昭和30年代から廃止までの時期にフォーカスし、当時の懐かしい写真や思い出と共に、私達の街を都電が駆け抜けていたころに想いを馳せてみました。



### 昭和30年頃の都電利用の思い出

私は私立中学校だったため、「魚籃坂下」、「伊皿子」から「赤十字病院下」まで都電(⑦系統)で通っていました。「魚籃坂下」は④⑤⑦系統が通り、乗換え停留所として賑わっていました。映画館やお店が立ち並び、停留所の前には模型店があったので、いつも模型を眺めていました。

都電はレールと架線が必要で、交差点にはポイント切り替える信号塔があり、魚籃坂下の街の姿は何かごちゃごちゃした印象がありました。

また、母と一緒に⑦系統に乗り、「権田原」で降り、よく神宮球場に6大学野球を見に行った思い出があります。家族と一緒に銀座に食事に行く時は、「田町九丁目」から「銀座」まで①系統に乗って行きました。運賃は15円くらいで、こどもは無料でした。渋谷、新宿方面に行く時は、⑤系統で目黒まで行き、山手線に乗りました。

戦前、都電のことを市電と言っていたようで、父はよく市電と言っていました。(安藤洋一さん)



都電最終日の高輪 昭和42(1967)年12月9日 撮影:片桐鉄雄さん

### 上田照彦さん(上田印章店)のお話

昭和36(1961)年、私が高校2年の折に祖父が亡くなり、ひとりで店を維持していた祖母を手伝うために、池袋の両親の元から三田へ移ってきました。

当時、都電は魚籃坂下から④⑤⑦系統、古川橋には⑧⑭系統と5系統ありましたので渋谷、銀座などどこにでも行けました。私も高校まで古川橋から恵比寿、池袋を経て東長崎まで1時間少しかけて都電通学をしていました。

魚らん商店会も約130店舗あり、賑やかで麻布十番商店街と肩を並べる程でした。

また、魚らん京映では、オールナイト3本立てで

日活、東映などの映画を上映し、浪曲、講談を楽しめる演芸館も近くにあり、夜は11時ごろまで人通りがあり、商店も9時、10時まで営業していました。

金型や機械部品工場が何軒もあり、その町工場で働く人達で活気に溢れていました。

品川方面からの魚籃坂は都電で一番きつい坂なので、雪のときは立往生し、砂を撒いて登っていましたが、ときには電車が3台繋がることもありました。

後記:魚籃坂下緑地噴水の横の高輪側都道に、今も都電のレールが埋まっていますよ。



今も右側の都道に線路が埋まっている魚籃坂下緑地噴水 令和2(2020)年5月 撮影:上田照彦さん



雪の日の白金台停留所前 昭和42(1967)年2月 提供:高輪今昔物語デジタルアーカイブ 撮影:金子芳夫さん



都電の車内と車掌さん 昭和42(1967)年10月 提供:高輪今昔物語デジタルアーカイブ 撮影:金子芳夫さん



都電①系統最後の日 品川駅前:昭和42(1967)年12月9日 提供:港区オープンデータカタログ



夕立の雨で土砂が流れ込み、脱線した都電魚籃坂下:昭和36~37(1961~1962)年頃 提供:高輪今昔物語デジタルアーカイブ 撮影:高野陽之助さん

### 「信号塔」って? なぜ「チンチン電車」?

大正14(1925)年10月、初めて半蔵門にポイント切り替えるための信号塔が設置されました。高さ約5m、60cm角の柱の上に約半畳の部屋があって、中には、電動式のレバーと交差点内の視界が一目でわかるように反射鏡も取り付けられていました。

この部屋では転轍手(てんてつしゅ)が発車から終電まで瞬時も休まずポイント操作をしていました。設置されたレバーは交差点内に設けられたギアボックスの中のチェーンに直結されていて、電動式にポイントのレールを操作していました。

この信号塔ができる前は、巡査と転轍手が交差点の真ん中に立ち信号とレール操作をすべて手動で行っていました。

昭和27(1952)年頃から信号塔の無人化が研究され、架線上に取りつけられたスイッチをパンタグラフがたたいて操作する方法で路面電車が交差点内で左右に方向を変えられる様になり、のちに魚籃坂下交差点にも設置されました。

都電が停留所を発車するときに車掌が運転士に送る「発車オーライ」の合図のベルの音が「チンチ



魚籃坂下の「信号塔」 提供:高輪今昔物語デジタルアーカイブ 撮影:高野陽之助さん

ン」です。ひもを引いて両端の運転台のベルを鳴らします。

その他、乗降車客がいないときの通過の合図など車掌と運転士の間で鳴らすベルの音「チンチン」をとって「チンチン電車」と呼んでいました。(参考:イカロス出版「懐かしい風景で振り返る東京都電」、JTBキャンパス「都電が走った街 今昔 激変の東京-定点対比30年」)



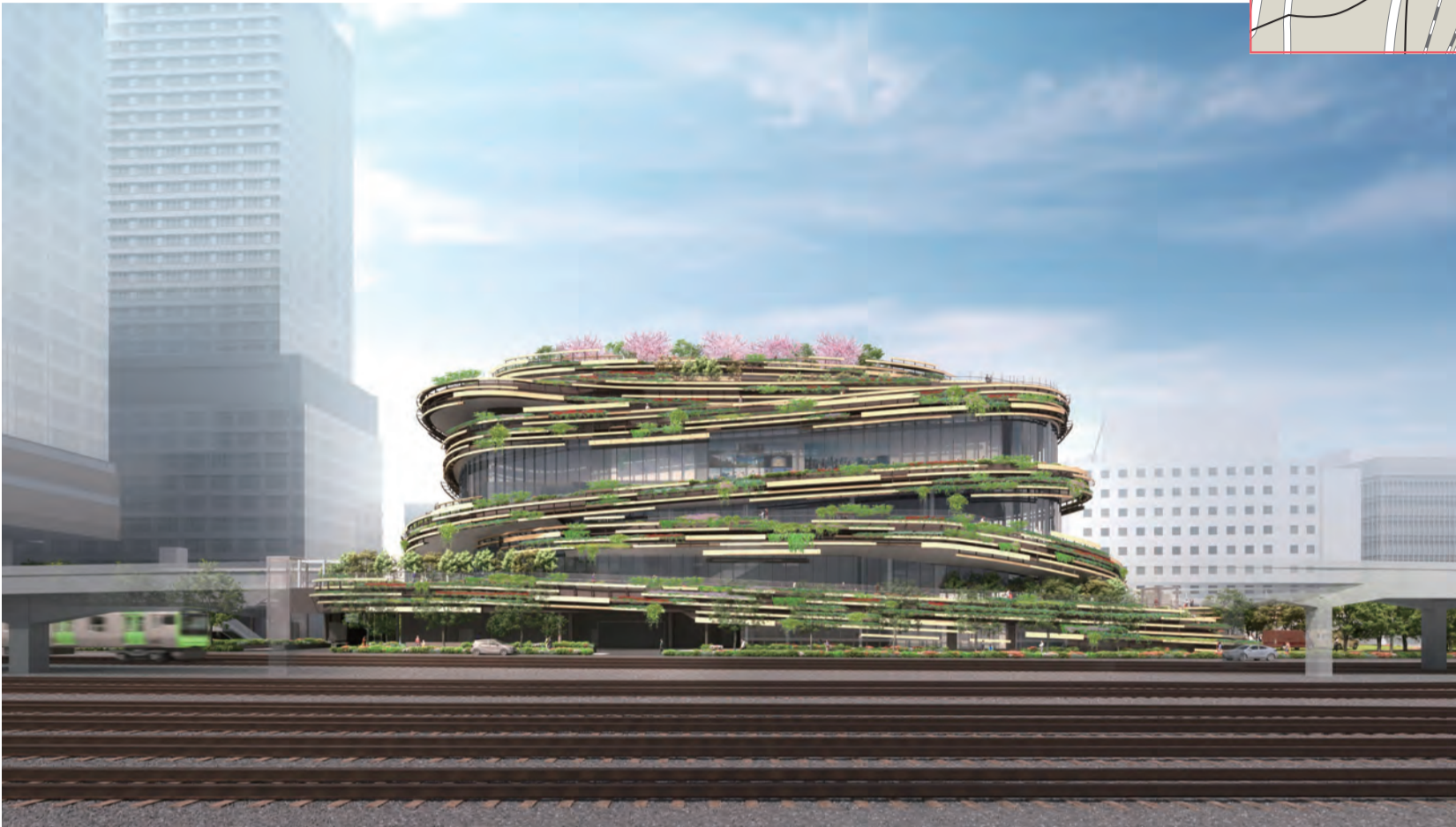


# 街が変わる

## 高輪ゲートウェイシティ(仮称)文化創造棟

JR東日本の高輪ゲートウェイシティ(仮称)のまちづくりにおける文化創造棟での各種プログラムの企画・運営を担うための組織として、一般財団法人 JR東日本文化創造財団が、令和4(2022)年4月1日に設立されています。

同財団の文化創造棟準備室長の内田まほろさんはじめ、同準備室の方々から文化創造棟についてお話をうかがいました。



文化創造棟 外観 (画像提供: JR東日本)

### ● 建物の構成

建物は地上6階、地下3階で、高さは約45m、延床面積は約2万9,000平方メートル。海から風が抜けるよう高さを低くおさえています。令和7(2025)年度中に開業を目指しています。

「100年先へ文化をつなぐ」をコンセプトに展覧会、ライブ、パフォーマンスアート、学びなど文化フォーマットに対応する場となります。外装のデザインは隈研吾建築都市設計事務所により、街のシンボルとなるようデザインされています。緑と木によって形づくられたスパイラルにより、建物全体で日本の四季を表現しています。

内部はBOX300、BOX1000、BOX1500など大小の様々な空間があり、展示、ライブイベント、パフォーマンスなどに対応しています。各BOXは、財団が自ら企画した大きなテーマに基づいたプログラムを開催する予定です。

4階には約100畳のたたみのスペースがあり、茶道、華道、ヨガなど新旧の文化に親しむ場となります。屋上は四季とともに活動する場として、水盤をあしらひ、水面に映る月を眺める月見や、花見などのイベントがある憩いの場となります。また、まちの夜景を楽しむこともできます。1階エントランス前には高輪築堤の遺構がある公園が出来る予定です。



約100畳のたたみスペース (画像提供: JR東日本)



水盤のある屋上 (画像提供: JR東日本)



文化創造棟準備室のみなさん。右から2番目が室長の内田まほろさん

### ● 地域との関わり

財団は地域との関わりを大切にしたいと考えており、いくつかのプランを考案中です。

建物全体の緑化は、環境にやさしく、日本の四季を表現できますが、一方、樹木や花をきちんと維持管理するのが大変です。ぜひ、地域の方々にご参加いただきたいと考えています。

樹木は鉢ごとに植えられる計画もあり、地域の方々が自分の鉢を育てるつもりで樹木を見守っていただくような仕組みも検討中です。

また、地域の歴史や文化に関わるテーマを、地域の学生や団体などとコラボで開催したり、地域のアーティストたちと一緒に一つのテーマで棟全体を使ったイベントなどを行うことも考えられます。

財団では、「文化創造棟」が、「過去から学び、新しい文化を創り、未来につなげる」を軸にすべての人が共に楽しみ学べる文化交流の場として育つことを目指しています。

### ● 取材をおえて

文化創造棟が完成すると、大きなコンサート、展示、イベントに接することができ、また、屋上から月や夜景を見るのも楽しみです。何かわくわくしますね。

文化創造棟準備室のスタッフみなさんからの丁寧な説明に感謝。



# 菊花寿司・合鴨じぶ煮と里芋の炊き合わせ



近茶流懐石正教授

大橋瑞子(みずこ)先生

高輪の地で30年以上「近茶流(きんさりゅう)懐石料理教室」を主宰。四季の食材の選び方、盛付け、器の扱いなど和食の魅力やマナーも学べるのがこの教室の魅力です。今回は、秋らしく、家庭でも作りやすい2品をご紹介します。

※近茶流:江戸時代の文化・文政の頃におこった柳原家家伝の割烹道

## 【合鴨じぶ煮と里芋の炊き合わせ】

### ■材料(4人分)

合鴨むね肉薄切り8枚(鶏むね肉でもよい)  
煮汁(だし1カップ、醤油大さじ2と1/2、砂糖大さじ2と1/2、酒大さじ1)、片栗粉、里芋大4個、煮汁(だし2カップ、砂糖大さじ4、塩小さじ1/2、うす口醤油小さじ2、酒大さじ1)、ミョウバン水(水3カップにミョウバン小さじ1をよく溶いたもの)、春菊1把、つけ汁(だし1カップ、うす口醤油、みりん各小さじ1、塩小さじ1/4) 柚子の皮の千切り 適宜

### ■作り方

- ①里芋はよく洗い、皮を形よくむき、ミョウバン水に20分つけておく
- ②ミョウバンを洗い流し、強火で竹串が通るまでやわらかく蒸す
- ③鍋にだしと里芋を入れ、あたたまったら砂糖を入れ4~5分煮たら他の調味料を加え、落とし蓋をし、弱火で味が含むまで煮る
- ④春菊は太い茎はのぞき、柔らかく茹でてしぼっておく
- ⑤つけ汁を作る 鍋に材料を全て入れ温めておく
- ⑥合鴨は1枚ずつ片栗粉をまぶし、鍋の煮汁が煮立ったら並べて火が通ったらすぐひきあげる(合鴨は煮すぎるとかたくなる)
- ⑦里芋と合鴨を器に盛り、春菊をあたためたつけ汁にさっと通し食べやすく切って添える。里芋の汁を少し張り、柚子の皮の千切りを天盛りする  
※ミョウバンはアクやぬめりを取り、煮崩れしにくくする効果がある

## 【菊花寿司】

### ■材料(4人分)

米2カップ、合わせ酢(酢40cc、砂糖大さじ2、塩小さじ1)  
菊花5花〜、甘酢(酢1/4カップ、砂糖大さじ2、塩少々)、しらす60g

### ■作り方

- ①合わせ酢を作る 酢に砂糖、塩をよく混ぜ、火にはかけない
- ②甘酢を作る 鍋に材料の酢、砂糖、塩を入れ火にかけて軽く煮溶かす
- ③菊花は中心部以外の花びらをむしり、少量の酢(色止めのため)をいれた熱湯で半透明になるまで素早く茹で水に取り、軽く絞り甘酢につけおく
- ④炊きあがったご飯に、合わせ酢をかけまわし、手早く切り返す
- ⑤酢飯が温かいうちに菊、しらすを混ぜてうちわであら熱をとる  
※甘酢は常温で長期保存ができるため、多めに作り置きをしておくと便利

(担当/澁谷、廣田、松島、滝川)

ペット

私だって  
地域の一員!

## 猫のナナちゃん(ナナ/メス/19才・雑種)

★飼い主:野口進さん・照世さん(白金台在住)



ナナちゃんは、野口さんの友人が路地で捨てられているのを見つけて保護し、生後2か月の頃、野口さんの家にきました。

野口さん夫妻は、それぞれのご実家でも、小さい時から犬猫を飼っていたので、お二人とも、動物大好き。当初、犬2匹、ペペちゃん(パグ)とモモちゃん(シュナウザー)を飼っていて、そこにナナちゃんが加わり、その後、近所の人から捨て猫のチビちゃんをお願いと連れてきて、犬2匹猫2匹との生活が始まりました。息子さんが育った後は、2階の一番日当たりの良い部屋が、ペット専用の部屋となりました。

チビちゃんは、もともと身体が弱く、6才で亡くなり、ペペちゃんも10才で亡くなりましたが、モモちゃんとナナちゃんは、姉妹のように仲良くしました。モモちゃんが10年前に13



ナナちゃん 19才

才で亡くなって、ナナちゃんは寂しく、よく鳴いてモモちゃんを呼んでいたそう。外には興味なく、ペット専用の部屋でのんびり暮らし、なんと夜には、大好きなご主人の進さんのベッドに入り、足元で寝るそうです。もう19才で、人間でいうと90才くらいですが、ずっと元気で一度も病院へ行ったことがありません。食べ物も、ドライフードだけです。

野口さん夫妻は、ナナちゃんに、元気で暮らしてもらって長生きしてほしいとのことでした。

(担当/滝川、松島)



大好きなモモちゃん(左)をみつめているナナちゃん(右)



いつも一緒にいたモモちゃん(左)とナナちゃん(右)



ペペちゃん(左)とモモちゃん(右)



ナナちゃん(左)とチビちゃん(右)



# わがまちの保育園紹介

子育て支援の拠点となっている保育園ですが、それぞれに子どもたちの健やかな環境を考えた特徴があります。  
ここではわがまち高輪地区の保育園を紹介します。

## みなと保育園

東京都認可保育所  
社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会

- 港区高輪1-6-9
- 開設 昭和52(1977)年4月

「みなと保育園」は、東京メトロ『白金高輪駅』から徒歩5分に位置し、緑多い閑静な住宅街の中にあり、屋上付き2階建ての建物です。産休明け0歳児保育(生後43日)の受け入れや延長保育(18:30~19:30)、地域の子育て支援の拠点となるよう地域に根差した保育園づくりに努めています。

野田園長にお話をお聞きしました。園児数は現在54名(0歳児~就学前の5歳児まで)、各年齢ごとにゆったりと遊ぶ保育室があります。

天気の良い日には、体力づくりの一環で近くの高松くすのき公園をはじめ、三田台公園や泉岳寺前児童遊園などへお散歩に行きます。

年長児童は、毎月和太鼓の指導を受け練習していて、これは27年前当時の園長が、都会の子供に和の物を取り入れたいという思いから始まりました。

園の主な行事として、6月に高松中学校の体育館を借りて運動会を、12月には高輪コミュニティプラザの区民ホールを借りて発表会を開催しています。特に和太鼓の演奏は、親子ともに、一番人気の演目です。七夕や節分、クリスマスなど和洋の行事も開催し、子

どもたちは、毎回楽しみに参加しています。

野田園長によると、「港区では待機児童が0になって、素晴らしいですが、反面“定員割れ”の保育園も出てきています。今後さらに園児数の減少が懸念され、保育園運営が心配です。いろいろと園のPRや工夫が必要で、昔からある歴史ある保育園として今後も、たくさんのお子さんや保護者の方と関わりを持っていきたいです」との事でした。



近くの公園で遊ぶ園児たち



保育園の外観



年長児童による和太鼓の演奏。高松中学校体育館にて



屋内で遊ぶ園児たち

## えほんのもり白金台保育園

東京都認可保育所  
株式会社萬松堂

- 港区白金台2-11-3
- 開設 平成31(2019)年4月

「えほんのもり白金台保育園」は、令和4(2022)年3月に初めて卒園生を送り出しました。「人生最初の人格形成の基礎を培う最も大切な時期に絵本に触れる機会の多い環境を作りたい」と考え、新潟県の江戸時代末期創業の本屋さん経営しています。そのため、絵本や図鑑など、子供たちに必要と思われる本がふんだんに提供され、毎年、本の数が増えています。園では、各家庭に本の貸し出しもしており、「うちの子は本が好きだから」と、この保育園を選ばれるご家庭もあるそうです。

35人ほどの小さな保育園ですが、ベテラン保育士もいて、それぞれの得意なところを日々の保育に生かしています。英語やダンス、食育などに興味のある保育士が、毎月のいろ

いろな行事を代わるがわるの担当し、毎回違った趣で行っています。楽器の得意な保育士の友達が集い、親子で生の演奏を楽しんだこともありました。

望月園長は、「いかに子供に良い刺激を与えることができるかを考え、お家にいるような楽しい保育園でありたい。ご家庭から期待以上だったと喜ばれると、嬉しくなる」と明るい笑顔でお話くださいました。



園内にはえほんコーナーがあります



どんな芽が出ているかなと、興味深々



保育園の外観



池田山公園にて



# 区からのお知らせ



高輪地区総合支所の公式Twitterでは、地域のできごとをはじめとした様々な情報を発信中。ぜひフォローをよろしくお願いします！  
@minato\_takanawa



## 三田台町会の山車の修繕が行われました

三田台町会は、港区三田4丁目周辺において、伊皿子交差点より聖坂方面に至る通りの両側に位置する町会です。  
この度、70年以上経過する山車を一般財団法人自治総合センターが実施する、助成制度を活用し修繕しました。この制度は、宝くじの社会貢献広報事業として、宝くじの受託事業収入を財源として実施しているコミュニティ助成事業です。山車は、宝くじの助成金で修繕されました。



お問合せ先 高輪地区総合支所協働推進課協働推進係 ☎03-5421-7621

## 港区の職員を名乗り

**「保険料や医療費の還付金がある」  
という詐欺電話が多発しています!**

区の職員が還付金や返還金に関しATMに行くようお願いすることは絶対にありません。

振り込め詐欺被害防止に効果がある自動通話録音機を無料で貸与します

電話の呼び出し音が鳴る前に、自動的に相手に警告し、通話を実際に録音する自動通話録音機を使用すれば、詐欺電話はほぼ撃退できます。区内の高齢者がいる世帯等に無料で貸与しますので、ぜひ利用しましょう。

※電話回線による非常通報装置(区の緊急通報システムを除く)とは併用ができない等、電話機の状態によって利用できない場合があります。

※電話料金等は利用者負担です。



設置イメージ: 電話機の状態により異なります

お問合せ先

防災課生活安全推進担当 ☎03-3578-2271

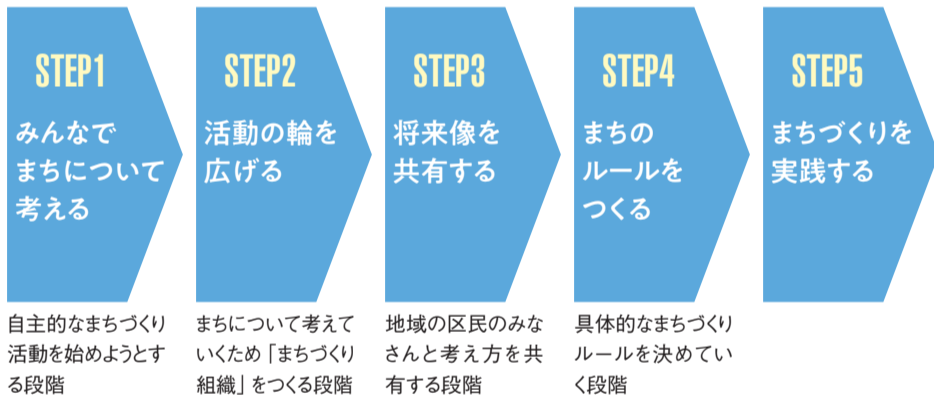
## 港区まちづくり条例を活用したまちづくりの仕組みのご紹介

港区では、地域の課題は地域で解決し、地域の発意と合意に基づくまちづくりを推進するため、地域主体のまちづくり活動を支援しています。

現在、高輪地区内で組織登録されているまちづくり組織は右図のとおり4団体あります。(令和4年9月1日時点)

まちづくりをご検討の方は、下記問合せ先までご連絡ください。

### ●まちづくり制度の手順

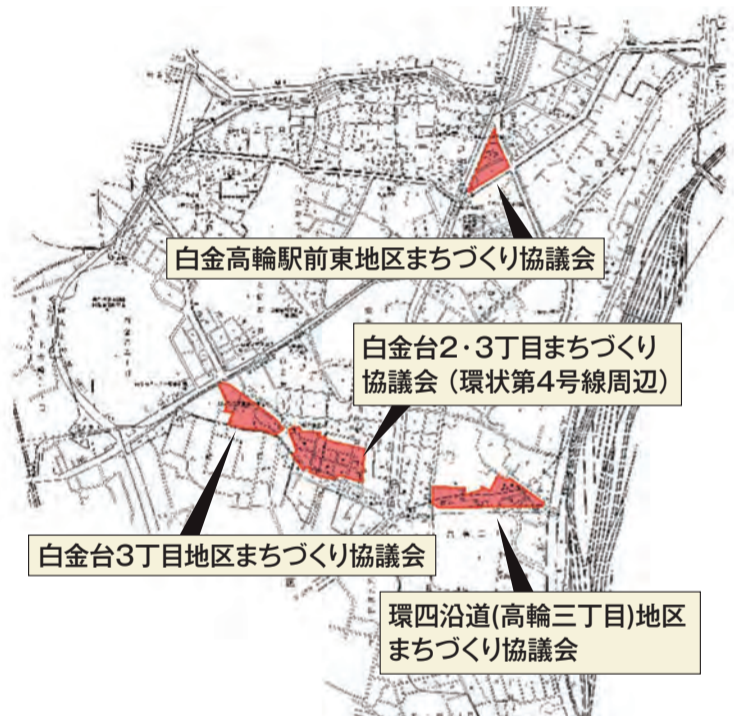


自主的なまちづくり活動を始めようとする段階

まちについて考えていくため「まちづくり組織」をつくる段階

地域の区民のみならずと考え方共有する段階

具体的なまちづくりルールを決めていく段階



お問合せ先 高輪地区総合支所まちづくり課まちづくり係 ☎03-5421-7664



## 読者アンケートのお願い

より良い『みなとっぴ』の紙面をつくるため、アンケートへのご協力をお願いします。アンケートは区のホームページから回答できます。  
(回答期限: 令和4年12月7日まで)



本紙のバックナンバーは港区ホームページ(高輪地区総合支所のページ)からもご覧になれます。

みなとっぴ バックナンバー

## 編集だより

※この情報紙は、区が公募し応募のあった地域住民と、区との協働でつくられています。

### 区民編集メンバー

- |               |        |
|---------------|--------|
| 安藤 洋一(チーフ)    | 澁谷 恵子  |
| 吉田 由紀子(サブチーフ) | 滝川 まりえ |
| 阿部 泰          | 長原 眞智子 |
| 池井戸 晴美        | 平尾 恭一  |
| 伊関 則子         | 廣田 由実子 |
| 小林 由夏         | 松島 佐紀子 |
| 佐々木 智秋        |        |

- ▶「歴史」と「未来」と「現在」が交差する高輪地区の魅力を少しでもご紹介できればと記事にまとめています。(安藤)
- ▶品川開発プロジェクトが進む現場と担当者の方々の熱い思いに接し、新たに変わっていく高輪ゲートウェイの街の誕生が今から楽しみになりました。(吉田)
- ▶取材で長い歴史のある、いわゆる100年企業の重みを感じました。文化を伝える努力も感じました。(阿部)
- ▶昭和の高輪や白金の様子を詳しくお話しいただいて、とても勉強になりました。(池井戸)
- ▶地域情報紙って、平和の象徴のようなものですね。どうぞこの平和がずっと続きますように…。(伊関)
- ▶静かに佇む建物。何気なく見ていた外壁が古く貴重なものとは知りませんでした。中はもちろん、外側も是非眺めてみてください。(小林)
- ▶梅田様の記事を担当。私自身が消防団員なので、大先輩に感謝して活動を頑張りたいと思いました。消防団は新しい仲間を待っています!(佐々木)

- ▶日本料理レシピ紹介取材を通して改めて、日本料理は世界に誇る、未来に残していきたい大切な文化だと思いました。(澁谷)
- ▶ペットの記事。猫好きの私としては、野口さんから、犬のモモちゃん猫のナナちゃんが姉妹のように仲良かった話をお聞きし、楽しく心温まるひとときでした。ご紹介くださった方に感謝です。(滝川)
- ▶高度成長期の活気ある街の様子とこれから広がるワクワクする未来の両方を取材するという、稀な機会を与えていただきありがとうございました。(長原)
- ▶味の素とJR東日本の取材に参加しました。企業は地域に対し色々な取り組みをしているのを感じました。地域の私達も協力していく必要があると思いました。(平尾)
- ▶日本料理のレシピ紹介の取材をしました。日本料理の奥深さと先生の温かいお人柄にも触れることができ、素敵な取材となりました。(廣田)
- ▶暑さとコロナ禍の中、取材に応じて頂いたり、ご紹介頂いたり。いつも皆さまのご協力に感謝しています。飼っていた犬と猫との違い、興味深いものでした。(松島)



買い物するなら地元の商店街で

毎週水曜日は午後7時まで受付

※取扱業務は限定されます。事前に確認ください。

区民課窓口サービス係 ☎5421-7612 / 保健福祉係 ☎5421-7085